



写真左:バンテアイミエンチェイ放送局 FM96.5MHz 10・11月度ゲストDJヨウ・ナットさん

写真右:左から由見、ピセット(中央奥)、DJソンバットさん。中央手前がナットさん。放送局にて。

## 第19回 (バタンバン:10月13日, バンテアイミエンチャイ10月7日)

### 朗読された手紙より1通

家族の皆へ

お母さん元気ですか?今は家へは帰れませんが、どうか心配しないでください。僕はとても元気です。職業訓練校で順調に技術を身につけています。おばあちゃんや親戚のみんなはどうしていますか?はやく皆さんの顔がみたいです。ここを無事に卒業したら皆さんに会いに行きますからね。では、皆さん、特に僕の大切な”Hちゃん”が末永く幸せであることを祈って。

オッドーミエンチェイ州 ヴォーン・タース

### 朗読された詩より1篇

題名:ある、不運な女性の話 作者:バタンバン州ソポベル郡 ソク・ニュアン(ニックネーム:パナ)

私の名前はパナ  
そう、私は障害者  
そして貧乏  
毎日毎日  
病気で寝たきりの母の介護  
もうこんな毎日は嫌  
わたしの両足  
そして片手  
もはや言うことをきかない

どうやって介護していけというの?  
どうやって生活しろというの?  
誰か助けて  
私は学校に行って学びたい!  
仕事もしたい!  
この状況を打破したから  
お願い  
見捨てないで

## インタビュー

バタンバン (FM103.25MHz) : CVD (Cambodian Vision in Development)

※第7回放送内容と同じ

バンテアイミエンチェイ (FM96.5MHz) :

10・11月度バンテアイミエンチェイ放送局ゲストDJ ヨウ・ナットさん(43歳, 地雷被害者) (生インタビュー)



私の出身はタイ国境のオッドーミエンチェイ州です。20年以上前の1985年に敵軍と戦闘を繰り返している最中、地雷の被害に遭いました。両足共に吹き飛び、それ以来車椅子の生活です。地雷を踏んだ直後は、気絶はしませんでした。足を失ったことがショックで、持っていた銃でそのまま自殺しようとしていました。でも仲間の兵士たちに止められ、タイの病院へ運ばれました。そのまま6ヶ月ほど入院して治療を受けました。病院を出た後はタイのカンボジア難民キャンプで生活しました。そこであるNGOから半年間、時計修理の技術を学びました。それから故郷のオッドーミエンチェイに帰ったのですが、残念なことに、すでに私の親族は誰一人いなくなっていました。両親も他界していました。今まで一人きり、孤独に生きてきました。現在は職業訓練センターのCWARSで理容技術を学んでいます。最後に、障害を抱える皆さん、例え手や足が不自由でも、私たちの精神に障害はないはずです。何事もあきらめずに頑張ってください。有意義な人生をおくるために、これからどうすべきか考えてください。努力さえすれば道は開けます。

私は両足がない地雷被害者ですが、CWARSで理容の技術を身につけ、商売ができるようになります。身寄りのない私だって頑張っているのです。家族のいる皆さんならなおさら頑張れるのではありませんか？

## 第20回 (バタンバン: 10月20日, バンテアイミエンチャイ 10月21日)

10月14日(日)は、放送局の電力不足でバンテアイミエンチャイでの放送は中止となった。したがって第20回の放送は翌週の10月21日(日)に持ち越された。

### 朗読された手紙より1通

家族の皆へ

お母さん、元気にしていますか？私はもうずいぶん元気になって、今では頑張って縫製の技術を勉強しています。全然心配はいりません。私の兄さん妹やいとも元気にしているのでしょうか？みんなに会えなくて寂しい毎日です。兄さん、私が帰るまでお母さんをよろしく頼みます。高齢だし病弱で心配だから。それでは、みんなの健康を祈って。

オッドーミエンチャイ州 ソー・スレイトット

### 朗読された詩より1篇

題名：障害者の人生 作者：バタンバン州プノンブルック郡 オン・ポントーン

俺たち障害者の人生

それは悲愴の色で染まっている

やりきれなさでいっぱいの人生なんだ

ただ外に出て歩くときさえ

人目が気になってしょうがない

もちろんそれでも

俺たちは歩いてかなきゃいけない

幸せは自分で手に入れるものだから

嗚呼 俺の人生！

誰も理解っちゃくれないこの辛さ

でもいいさ

俺は自分を頼って生きていく！

それでもただひとつ

この機会に言わせて欲しい

こんなことは日頃言わないが

今日は勇気を持って言う

「チュンピカ(障害者)だ！」

指を指してそう言う輩よ

いいかげんにしてくれ！

仏教の教えを知っているだろ

障害者を差別する権利は誰にもない

俺たちが君たちを差別しないのと同じだよ

### インタビュー

O.E.C (Operations Enfants du Cambodge)

※第9回放送内容と同じ

## 第21回 (バットンバン: 10月27日, バンテアイミエンチャイ 10月28日)

今回の放送でバットンバン放送局のゲストDJ、アエク・スオンさんの出演は最後となった。EMERGENCYに勤めていらっしやるだけあって、最近の地雷事故の情報など、現場の声を直接番組内でお聞きすることができた。

### 朗読された手紙より1通

ラジオをお聴きの皆さん、ご機嫌いかがですか？とくにバットンバンやその周辺で活動している EMERGENCY のスタッフの皆さん、元気ですか？私は EMERGENCY で働いている障害者です。とっても元気です。障害はありますが、私はどんなことにも挑戦しています。生きている限り、私の挑戦は続きます。いつも希望を持って、前向きに生きています。ほかの障害者の方も私のように明るく生きていけることを願います。特にもう言うことはありませんが、最後にただ、皆さんのお仕事の成功と幸福を願って。

バットンバン州 スヴァイ・ポウ

### 朗読された詩より1篇

作者：バットンバン州 プロム・サラーン

俺は農民  
どんなにきつかるうが  
どんなに辛かるうが  
家族のために  
自分の人生のために  
俺は働かねばならぬ  
それなのに  
地雷はお構いなしに  
俺の足を襲った

地雷は踏む者を選ばないのだ  
金持ちだろうと貧乏人だろうと  
男であろうと女であろうと  
大人であろうと子どもであろうと  
人間であろうと牛であろうと  
踏んだが最後である  
こんなにも恐ろしい兵器  
なぜカンボジアにあるのか  
本当に残念だ

### インタビュー

MAG 地雷撤去員、ボウ・チャム氏 (バットンバン放送局7・8月度ゲストDJ)

※第4回バットンバン放送内容と同じ